

# 事業者における自己評価結果（公表）

別紙 3

公表：令和 元年 5月 1日

事業所名 もやいのえんがわ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		児童が動ける導線は安全を考慮	
	②	職員の配置数は適切である	○		利用状況に合わせて加配している。	
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		入口以外に段差なし	
業務改善	④	業務改善を進めるための PDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		職員全員で目標設定を共有し、実施した内容の振り返りをおこなう。	
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケート初回なので、今回の結果を踏まえて活動する。	
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している		○	アンケート初回なので今回が初めての公開	
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		まだ外部評価を行ったことがない。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		毎月実施している。	
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		今まで3か月ごとにアセスメントを行い、サービス計画を作成	
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		適宜モニタリングなどの際は相談支援事業所と連携して行動状況の把握に努めている。	
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		適宜ケースカンファを実施	
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		スケジュール化している	
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○		新年度はきめ細かに設定し、提供するように計画済み

	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別・集団どちらでも活動できるように計画している。	
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		より良いサービスが提供できるようにきめ細かに打ち合わせや適宜話し合いを	
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		必ず共有し、課題と対策を決定	
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々変化していく状況を職員で共有し、対応している。	
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		相談支援事業所と定期的に実施	
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		実施している	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		管理者や児童発達支援管理責任者が対応している。	
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		互いのスケジュール感んだりや報連相を適宜実施している。	
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	事業所の協力医療機関と児童の主治医で必要なケアの連絡を取り合うようになっている。	
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		直接お話を聞くことや電話で確認を取り、情報共有している。	
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		今までの利用児に該当するものがない。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		行政の精神保健福祉課と連携し知識の研鑽を重ねている。	
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		公園やイベント時に交流する機会がある	

	⑳	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している	○	案内が来るので、参加できる際にはスタッフに促している。	
	㉑	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	連絡帳の導入適宜連絡している	
	㉒	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○	療育センターの職員などに話しを聞く機会を設けている。	
	㉓	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	適宜、資料配布や説明を心がけている。	
	㉔	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	必要がある際は適宜連絡するようになっている連絡帳の導入	
保護者への説明責任等	㉕	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	定期的に相談カフェを行っている。	
	㉖	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○	組織体制において苦情が起きた際のマニュアルに従い迅速に対応している。	
	㉗	定期的に会報等を発行し、活動概要や行動予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	保護者へ直接お話しすることや電話で対応していた。	新年度は情報共有の方法として、保護者に報告を紙媒体で発信する。
	㉘	個人情報に十分注意している	○	書面、会議で適宜通知	
	㉙	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	定期的にお手紙を出すようにしている。	
	㉚	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	月1回のマルシェの参加や清掃活動を定期的実施	
	非常時等の対応	㉛	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○	職員研修で感染症を盛り込み周知徹底するようにしている。
㉜		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	防火組織体制をくんでおり、防火管理者も2名設置している。	
㉝		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	気になることがあれば適宜相談支援事業所へ報告している。	
		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行			

④1	うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	事前にも書面で説明している。	
④2	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	利用児童の食物アレルギーを確認し、対応している。	
④3	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	定期的実施している。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。